

宗教部 ニュースレター

C O N T E N T S

第3号発刊によせて・・	1
“HOPE”活動紹介……	
宗教部活動……	2
新入生歓迎会	
前期キリスト教週間	3
学生宗教委員より……	4
夏期プログラム紹介……	
キリスト教の紹介-その3-	

『宗教部ニュースレター』 第3号発刊によせて

平素より、沖縄キリスト教学院宗教部の活動にご理解・ご協力を頂き感謝申し上げます。
 宗教部は2014年度も「キリストの平和～沖縄から世界へ～」(The Lord's peace: from Okinawa to the World)を年間テーマとしてキリスト教活動を展開してゆきます。国内の政治情勢が急変する中、本学の建学の精神であるキリストの平和を、沖縄を拠点として構築するための教育が今後一層求められてくると思います。今回で第3号の発刊となる本誌がその一助となれば幸いです。

宗教部長 青野和彦

わたしたちは学生宗教委員会です



紹介します!!



委員長
人文学部3年
佐久真 基子

HOPE (宗教部に所属する学生団体)

HOPE では、毎週月曜日のランチタイムにお弁当を食べながらミーティングをもっています。イベントの企画や礼拝の担当など、メンバーの一人ひとりが楽しく参加できるような輪作りを目指しています。今年度は新入生四名が加わり、また新たなHOPEのスタートとなりました。キリスト教週間に行ったイースターエッグペイントや学生企画礼拝の劇など、メンバーそれぞれの個性を生かして取り組んでいます。また初の試みとして夏休みには施設訪問やボランティアなども計画していますので、興味のある方はぜひ一度チャペルに足を運んでみて下さいね。



HOPEはキリスト教文化研究所(チャペル入口右側の部屋)で活動しています!

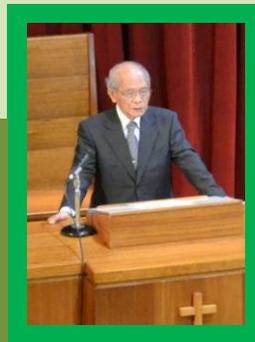
短大新入生オリエンテーション(4月4日)

宗教部 活動報告

今年で本プログラムは2年目を迎えました
が、宗教部は昨年と同様、開会・閉会礼拝を担
当しました。

まず、「開会礼拝」では金城重明先生(沖縄キ
リスト教短期大学第3代学長・名誉教授)をお
迎えし、「イエス・キリストとの出会い」という
題名でメッセージを担当して頂きました。金城
先生は戦時中の渡嘉敷島での集団強制死の体験
を通して、御自身がイエス・キリストに出会い、
信仰に導かれていった経緯、また「真理」(ヨハ
ネ8:32)に出会うことによって過去の苦しい
体験による呪縛から解放されたことを紹介され
ました。また金城先生は、本学の建学の精神が
「キリスト教による人間教育」、つまりかつて戦
場であった沖縄の地に創設されたキリスト教学
校として、武力放棄を訴えたキリストの教えを
土台とする「命の尊厳」を伝えてゆく教育であ
ることを静かに伝えて下さいました。

次に「閉会礼拝」では、宗教部長が「未来を
見つめて」と題したメッセージを「ローマの信
徒への手紙」8:24、25から行いました。そこ
では聖書の説く「希望」の意味を紹介しました。
つまりそれは、神と人に仕えることによって他
者を幸せにする。そしてその交流の中で自分も
幸せを享受するという希望です。学生達自身も
在学中に他者に奉仕する機会を積極的に持ち、
それによって自らも精神的に満たされる体験
をして欲しいと思います。



第三代学長
金城重明先生

人文学部英語コミュニケーション学科 新入生オリエンテーション(5月14日~16日)

標記オリエンテーションにおいて、宗
教部は開会・閉会礼拝、講演会、「朝のつ
どい」(讚美礼拝)を担当しました。ここ
では主に講演会について報告します。

昨年と同じように、金城重明先生から
「イエス・キリストとの出会い」という
タイトルで講演を拝聴しました。金城先
生は渡嘉敷島で体験された凄惨な集団自
決(強制集団死)を経て、戦後、キリス
ト教信仰をもつに至った経緯、さらには
米国留学体験を語って下さいました。直
接の契機は、キリスト者の戦争引揚者か
ら貰った聖書との出会いであったそう
です。しかし、その背景には集団強制死
の体験があり、ご自身の救いをキリス
トの十字架での贖罪に求められたと語られ
ました。

講演後、質疑応答の時間を共有しました。数
名の学生、教員から、玉砕の意味について、過
去の心の痛みに対し、信仰はどのように助けに
なっているのか、日本兵は住民に対してどのよ
うな態度で臨んだのか、さらには憲法改正につ
いてどう思うか等、熱心な質問が出されまし
た。それに対して金城先生は戦時下の状況を克
明に説明しつつ、一貫して生命の大切さの観点
から答えておられました。また、人命を尊重す
る教育こそが本学の使命である点も強調され
ました。今回は金城先生の要望もあり、十分な
質疑応答の時間をもつことができた分、学生達
は講演の趣旨をこれまで以上に理解するこ
とができたものと確信します。

最後に、開会・閉会礼拝の司会と奏楽の奉仕
をして下さった学生宗教委員3名(全員人文学
部学生)にも謝意を表したいと思います。

2014年度前期キリスト教週間プログラム 4月21日(月)～25日(金)



- 21日 月曜礼拝「復活のキリストを知る」
- 22日 学生企画プログラム① イースターエッグのペイントと卵探しゲーム
- 23日 教職員・学生昼食会
- 24日 キリスト教講演会「キリ学の建学の精神を確認しよう」
- 25日 学生企画プログラム② 映画上映会「アメイジング グレイス」

前期キリスト教週間「キリスト教講演会」(4月24日)

今回、平良修先生(沖縄キリスト教短期大学第2代学長)をお招きし、標記の講演会をもちました。平良先生は「皆さんはキリ学の建学の精神を知ってキリ学を選んだのですか?」という冒頭の問いかけを含め10項目にわたり、テーマについてお話しされました。中心部分を以下に要約します。

キリ学の建学の精神は何か。それは、平和を創り出す人(peace-maker)の育成にあります。それを、キリ学の拠って立つイエス・キリストの精神によって実現しようということです。キリ学の目指すのは、イエス・キリストを宣伝して学生や職員をクリスチャンにすることではありません。それは教会の仕事です。キリ学は平和を創り出す人間の育成にはイエス・キリストの精神を基にするやり方、それを最善だと確信しているのです。そのイエス・キリストの精神とは、神と隣人の前で自分自身の個を確立し、キリストのように他者に仕え(マルコ10:45)、共に仕え合い(ガラテヤ5:13)共に生きる人間(ローマ12:15)——。そのよう

な「平和人」。キリ学はイエス・キリストの精神に基づくこのような「平和人」の誕生を望んでいます。だから、そのイエス・キリストの精神を学び取り、生活化してほしいのです。その場合「キリスト教の精神」によってではなく、「イエス・キリストの精神」によってということ。両者はどう違うのか。「キリスト教の精神」と言う場合、それには宗教、宗教集団としてのキリスト教、ないしはキリスト教会に拘束された狭さがあるのに対して、「イエス・キリストの精神」と言う場合、伝統や組織に縛られることなく、神が与えた最大の戒め、「人を大切にする」ことに徹するという生き方です。例えば、「汝殺すなかれ」という神の絶対命令にもかかわらず戦争を全廃することができないでいるいわゆるキリスト教国は、「イエス・キリストの精神」ではなく、「キリスト教の精神」に立っているのではないのでしょうか。

さらに、平良先生は仲里朝章牧師の本学建学の経緯と志、またご自身の平和運動についても言及されました。平良先生にとってイエス・キリストが自らの全人格をかけて教えた全人類への最大の戒めは「人を大切にする」ことによって神を大切にする」を具体化することでした。

例えば戦争は人間を粗末にする罪悪の最大のものであり、それに全面的に抵抗するのは牧師のみならずキリスト教会の公務であると確信しているとのことでした。

キリ学コミュニティーのメンバーとして銘記しておきたいメッセージでした。



沖縄キリスト教短期大学 第2代学長 平良 修 先生



「Who is the King?」を演じたHOPEメンバー（前列右から二人目が阿波根さん）

前期は学生による礼拝が2回企画されました。6月2日は2名の学生による「証し」、2回目の6月16日は「Who is the King?」（サムエル記上16章7節）が演じられました。

学生企画礼拝に参加して下さった皆さん、ありがとうございます。私は今回学生企画礼拝に携わりましたが、自分自身聖書の内容について深く理解しているわけではないので、学生企画礼拝を通して皆さんに聖書、キリストについて知ってもらうだけではなく、自分にとっても聖書について学ぶよい機会となりました。このように礼拝や沢山の行事を通して多くの学生、先生方と関わっていききたいと思えます。聖書や礼拝などは堅いイメージがあるかもしれませんが、これからも学生宗教部を宜しく願います。

人文学部
英語コミュニケーション学科二年
阿波根 昌孝さん

学生宗教委員より 「自分が聖書を学ぶ機会に」

サマー聖書キャンプ

宗教部主催のサマー聖書キャンプが本年度も行われます。福岡女学院から4名の参加を迎え、今帰仁・北山荘をベースに多くを学び交流を深める機会となることを期待しています。



北山荘 facebook より

参加者募集

募集人数：9名（本学学生に限る）
募集締切：2014年7月31日（木）
※定員に達し次第締め切ります

申し込み・問い合わせ

shukyobu@ocjc.ac.jp
098-946-4152

日程：2014年8月20日（水）～22日（金）

- 1日目：中部戦跡巡り～今帰仁
- 2日目：伊江島戦跡巡り他～今帰仁
- 3日目：今帰仁北山荘～学院、解散

参加費：¥5,000

※費用には食費、宿泊費、交通費、保険料などを含まれます。¥5,000を超える費用は学院が補助します

沖縄キリスト教平和研究所 主催 第2回 沖縄・長崎・広島から 平和を考える学び合い

日程：2014年9月8日（月）～13日（土）
場所：沖縄キリスト教学院、伊江島、本島内各地
参加費：20,000円

キリスト教主義大学の学生が集まり、県内各地を巡りながら、研修とシンポジウムを行います

問合せ・申し込み：
沖縄キリスト教平和研究所
098-946-1279 ocpi@ocjc.ac.jp

キリスト教の紹介—その3— 「アーメン」の意味

この意味については、4月の月曜礼拝や、短大のキリスト教学でも簡単に説明しました。学生の皆さんは覚えていますか？ 英語でも「Amen」と唱えていますが、これは旧約聖書が書かれた言語であるヘブライ（ヘブル語）です。それは「確かである」、「堅固である」を意味する「アアマン」に由来する副詞で、日本語では「まことに」、「真実に」と訳されます。旧約聖書でも新約聖書でも、「アーメン」は礼拝の際、神を信じる人々が語られた言葉の確かさと正しさに対する心からの賛同を言い表す時に唱えた言葉です。

キリスト教会では大部分がキリスト者なので、お祈りや讃美歌の後、自然にアーメンを唱えます。但し、これはクリスチャンにだけ唱えることが許されている言葉ではありません。たとえ、クリスチャンでなくても、先に書いたように礼拝の中で語られたメッセージや讃美歌の歌詞に賛同することができれば、信者でなくてもアーメンと唱えてよいのです。むしろ元気に唱えて頂きたいと思えます。



（青野 和彦・宗教部長）

編集後記

宗教部活動について紙面にて紹介させていただきましたが、沖縄キリスト教学院のfacebookページでもここで取り上げた活動の様子を紹介していますので是非ご覧ください！

<http://www.facebook.com/OCU.OCJC>

いいね！

宗教部ニューズレター 第3号
2014年7月発行

発行 沖縄キリスト教学院 宗教部
沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地
TEL. 098-946-4152
URL <http://www.ocjc.ac.jp/index.html>
Email shukyobu@ocjc.ac.jp